

タイトル	母親と父親の育児の現状と想いについて — 家庭の声を聴いて育児に関する想いを知ろう —
作成者(著者)	山脇寛子
作成者(ヨミ)	ヤマサキ, ヒロコ
出版社・団体	下関短期大学保育学科
出版社・団体(ヨミ)	シモノセキタンキダイガクホイクガッカ
Nii資料タイプ(区分)	研究報告書(教育実践記録等)
ISSN	—
掲載誌名	第30回 下関短期大学保育学科 創作発表会研究発表要旨集
巻・号	—
開始ページ	5
終了ページ	6
発行日	2017/12/9

下関短期大学  
〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1

Copyright©2017 Shimonoseki Junior College All rights  
Reserved.

# 母親と父親の育児の現状と想いについて

## —家庭の声を聴いて育児に関する想いを知ろう—

下関短期大学 保育学科 (担当教員: 山脇 寛子)

心理ゼミナール 2年 迫田 明菜、佐藤 美沙樹、田中 美有

### 1 研究の目的

本ゼミナールは、保育者となって親子に関わる際に必要となってくる「こころや気持ち」という視点を中心に研究を行い、保育者としての意識を高めることを目的としている。

近年、ニュースや新聞をはじめとするメディアで「イクメン」という言葉をよく目にする。そもそも、「イクメン」とはどのような人間を指すことなのかに興味を持ち、研究をスタートさせた。

「イクメン」についての記事や調査結果等を調べるうちに、「イクボン」というものに出会った(写真1)。

また、研究を進める中、総務省統計局が平成23年に実施した社会生活基本調査において、6歳未満児をもつ夫婦の家事・育児時間を国際比較したデータを目にした(図1)。

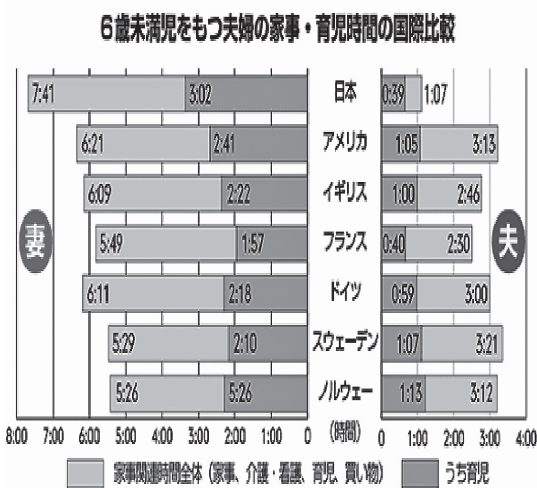


図1 総務省「平成23年度社会生活基本調査」

フランスやアメリカ、ドイツ等では夫の家事・育児時間が1日で2.5時間を超すのに対し、日本の夫の家事・育児時間は約1時間で、調査した7カ国のうち、最も短いとわかった。それに対し、日本の妻の家事・育児時間は約7.5時間で、7カ国中最も長いという結果であった。

家事・育児時間に関する諸外国との違いを目の当たりにして、日本で「イクメン」が広まってきたことには母親側の育児・家事に対する様々な想いがあるのではないかと感じた。

将来、保育者になる自分達にとっては、実際に現在育児をしている方達の実情を知ることが現場に出た際の保護者への関わりに役立つと考え調べることにした。



写真1 山口県お父さんの育児手帳「やまぐちイクメン維新～お父さんの育児手帳～」

これは、母子手帳の父親版で、各都道府県で配布されているものである。各都道府県が方言や著名な出身者を用いて作成するなど、工夫がみられた。

## 2 研究の方法

現在育児をする人たちの実情を知るために、アンケート調査を行った。

アンケートの質問項目については、各都道府県の「イクボン」に挙げられている項目を参考にして作成した(写真2)。項目数については、回答者の負担も考えてA3用紙片面1枚で収まる計6問とした。

回答をお願いしたのは、計4組の夫婦(父母の平均年齢:33歳、お子さんの平均年齢:1.7歳)で、郵送にて回収した。調査時期は2017年8月~9月である。

**妊娠・育児に関するアンケート**

本アンケートは、妊娠や育児に関する事をお尋ねするものです。お忙しい中、お手数おかけいたしますが、ご協力よろしくお願いいたします。  
なお、今後の調査で得られた情報は研究目的以外には使用いたしません。

ご自身の年齢( )歳・性別(男・女) お子さんの年齢( )歳・性別(男・女)

Q1 妊娠中や育児中の事についてお尋ねします。  
パートナーにしてお知らせや、してもらって嬉しかった事を教えてください。  
(例: 出生届や保険加入等の手続き、家事の手伝い、病院の送迎など・・・)

Q2 育児をしている中で、良かったと感じることや喜びを教えてください。  
(例: 子どもの成長を感じられる、夫婦の会話が増えたなど・・・)

Q3 妊娠中や育児に関して、パートナーが知らなくて聞いたことを教えてください。  
(例: 妊娠中の禁止事項、オムツの換え方など・・・)

●育児休暇の取得についてお尋ねします。  
【男女ともに回答ください】

Q4-1 育児休暇までの( )か月 or ( )年 or 現在取得中  
1. なかった 2. とっていない

【女性の方、回答をお願いします】  
Q4-2 (Q4-1)で「パートナーが「育児休暇をとっていない」という方へお尋ねします。  
パートナーに育児休暇を取得して欲しかったですか?  
1. してほしかった 2. 取得しなくて構わなかった

【男性の方、回答をお願いします】  
Q4-3 (Q4-1)で「とっていない」を選んだ方へお尋ねします。  
育児休暇の取得は二倍計されましたか?  
1. した 2. しなかった

Q4-4 (Q4-3)の理由をお聞かせください。

Q5 母親教室や父親教室など、育児に関する体験会や勉強会に参加しましたか?  
1. した 2. しなかった

Q6 次のデータを見て、感じたこと・考えたことを自由にお答えください。

**日産未実現をもつ夫婦の家事・育児時間の国際比較**

国	日本	イギリス	フランス	イタリア	スウェーデン	オランダ
未実現率	107	313	246	230	300	321
家事時間(分)	1,600	1,900	2,000	2,000	2,000	2,000
育児時間(分)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

6歳未満の子供を持つ共働き世帯における主な行動の種類別生活時間 - 平成23年

行動	夫(分)	妻(分)
家事	1,000	1,000
育児	1,000	1,000
通勤	1,000	1,000
通学	1,000	1,000
通勤・通学	1,000	1,000
通勤・通学	1,000	1,000

ご協力ありがとうございました。

写真2 「妊娠・育児に関するアンケート」用紙

## 3 結果・考察

アンケートの結果からは次のようなことがみえてきた。

- 父親が参加している育児・家事の内容
- 育児をしている中で感じる喜び
- 育児休暇取得についての現状と理由
- 日本と諸外国との家事・育児時間の違いについての意見・考え
- 共働き世帯の生活時間の違いについての意見・考え

イクメンのイメージは家事や育児なんでもしてくれるパパというイメージを持っていた。しかし今回アンケートを取り、イメージとは違い仕事が忙しく中々家事や育児を積極的にできないということが分かった。今後子どもと関わる仕事に就くことでお母さんたちの話や悩みなどを聞いて調べたことを活かしコミュニケーションをとっていき少しでも力になれば良いと感じた。

(迫田明菜)

日本の育児の現状について知ることで、日本は妻の家事関連時間がとても長くそれに比べ夫はとても短いということが分かった。夫の家事関連時間を増やしたくても、現状では経済的な理由や職場環境により休暇が困難であることも知ることが出来た。誰もが育児休暇を取りやすい社会になってほしいと感じた。将来保育者として今回で学んだことを活かし少しでも保護者の方の力になれるように努めたいと思う。

(佐藤美沙樹)

今回の活動でイクメン、イクボンについて調べ、アンケートを取ることで理想と現実が違うことを知った。現実では、育休を取ることは難しく毎日の生活が大変、忙しいということを知ることが出来た。卒業後子ども達と関わる仕事に就くので保護者の話を聞くことやコミュニケーションを取ることで少しでもサポートしていけると良いと感じた。

(田中美有)

### 【参考文献】

- 1) 総務省統計局「平成 23 年社会生活基本調査」2011年
- 2) 山口県こども政策課編集・発行「やまぐちイクメン維新～お父さんの育児手帳～」2016年